

---

# 男ノ恋愛。真面目カラ遊ビマデ。 -ノンフィク

25歳

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

男ノ恋愛。真面目カラ遊びマガ。 -ノンフィク

### 【Zコード】

Z4046D

### 【作者名】

25歳

### 【あらすじ】

ノンフィクションです。真面目な恋愛から遊び人まで経験しました。そんな俺のありのままの恋愛体験を素直に書いていきたいと思います。とりあえず今回は16歳の時に初めて彼女ができるまでです。

高校生の時だった

「・・・別れよつか

涙流しながら電話越しに呟われたあの言葉と、言葉では表せないぐらいいい感じの

思いは今でも覚えてる。

こんな思いをするなり恋愛なんてしたくないって思った。

と、まー硬くはじめてみましたが

こんな硬い感じで書くつもりはありません。

疲れちゃうし、なんかありのままを書けない気がするから。

25歳になる男です。

今の時代の学生の恋愛はよくわかんないけど、俺の世代にしては結構恋愛経験は豊富だとと思う。

男の恋愛体験とか、恋愛感情って漫画とか小説とかあんまないからそういう意味で

楽しんだもんならなと思います。

そういう事でノンフクションです。w

16歳高校2年生。

彼女とか今までまったく意識していなかつたけど、周りの空気に影響され少しづつ

欲しいかもと思つてきた時期だつた。

ただそこまで、学校の女の子と親しくないし、付き合いたいって思う子さえいなかつた。

その中で2学期の夏休み中に友達内で合コンをしよう!と盛り上がつた。

まだネットもそこまで普及していなかつた(というか危険性がなかつた)ので俺は普通に

出会い系の掲示板にこいつ書いた

「今度合コンしませんか?年は16歳~17歳です。番号はXXX-XXXX-XXXXです。電話ください。」

今考えると恐ろしい。ネットに番号を載せるなんて。。

ただ今じゃないんです。

普通に電話かかってきます。

「掲示板見ました、合コンしませんか?」

そんなこんなで3対3で合コンする事になりました。

と思って3人集めて行つたら相手は2人でなんとも微妙な3対2の合コンをしました。

この時なぜかあんま仲よくない友達2人を連れていったんですけどいざ合コンになるとあんま関係ないんだよね。

むしろそとか、その後の反省会とかで仲良くなる。

それを今後「コミュケーションって呼ぶようになるんだけど」

んまーそんな話はおいといて、一次会カラオケ行つた後（高校生居酒屋はいれないからね。。）

飲みたいね！つて話で盛り上がり結構大きい公園に酒持つて移動しました。

結構飲んで、その酔つてる中で

「おー、おまえら今さき合つちやねー

つてノリで俺が言つたら

「んじゃ、付き合つかー

みたいな感じでノリで付き合つました。

えー。

しかも女の子かわいいし。

つか、一番驚くのはあれから約10年  
まだこの2人付き合つてますww

すげーなー

運命つてすげーなー

俺すげーなー

んで、別の日にもう一人の女の子から電話がかつてき

「付き合おう」って俺告白されました。

初かの欲しい！って葛藤があつたけどタイプじゃなかつたんでも丁重にお断りしました。

結構悲しんで、悪かつたなつて軽くショックを受けたけどまーしょうがないよなつて思つていました。

そしたら2日後、もう一人一緒に合コン行つたやつとその女の子が付き合つてました。

え―――。

どんだけ―――。（って当時は思つてないけど）

まーその2人はさすがに今は付き合つてないけど6年ぐらいは付き合つてましたw

なんかこの合コンかなり運命的です。

それから俺は学年内でコンペで一躍有名となり、いたる人に合コンを開いてーと言われるようになりました。  
よかつたよかつた

じゃなくて、タイトル初かの！ではじまつてから

まだ俺好きな人すら出来てないしｗ

つてことで本題にー

冬のスキー旅行かな。学校での。飯食うときに、俺の友達2人が

「りかさんかわいいんだよなー」って言つてました。

俺が「え、どの人?」って聞いたら

「あの、隣のクラスの一一番端の子。俺軽く話せはするんだけどそこまで仲良くないんだよね～」  
つて。

俺はふーんつて感じで見てました。

なんかそれからその友達といる時に、その子がすれ違うと  
「おっす！」みたいな感じで挨拶してたからいつしか俺もするよつこ  
なりました。

あれ？

ん

「おつかー。」しか黙つてないよな。。

で、気になり、番号を聞くついで思いました。

あれー? 早くね!?

やべー、もうまでひっぱといてあんま覚えてねーな。。

たぶん、ちよこちよこは話してたと思います。

たぶん。。

2学期の終業式の日は番号聞くついで、俺は心に決め学校へ向かいました。

ヨシ、ガンバルゾ!

彼女は休みでした。。。

おい。

そんなへこたれた俺は、友達とカラオケオールです。  
夜テンションも上がってきて

「よし、俺はリカサンに電話するよーーー番号を教えてくれ!」と  
番号を知っていた友達に聞きいきなり電話しました

俺「あ、もしもし、 です。わかります？」

リカサン「え？ ああ！ わかるよー。ビーフしたの？」

俺「いや、『』めん急に。ちょっと友達に聞いてかけちゃった。ほんとは

直接番号聞こうかなとか思つてたんだけど、今日休みだつたからさ」

リカサン「そ、うなんだーー。ううん、ぜんぜんいいよ、ありがとねー。」

と！

なんかいい感じの電話でした。

と、うあえずすげー嬉しかったのは覚えていいます。

んで次の日、俺の携帯からあんま聞きなれない音が聞こえました。

ショートメール受信

ん、内容を見てみると

「オハヨー、リカヒメより  
リカヒメ・・・?リカさん!?

そう、当時Eメールといつもののがなかつたんです、相手はJ・PHONEで

メールのやりとりができなかつたんだけどポケベル方式でショートメールはできたんで

それで送つてきてくれたんです。

俺はすぐーテンションが上がつて、J・PHONEのパンフレットを必死に見て（なぜあるの！？）

メールの送り方を調べ送り返しました。

そんな幸せなメールのやり取りが続き3月30日、

ついに?

「あなたの事が好きです、オヤス!!」つて告白投げメールがきました。

え、まじで!/?ほんとに!?

興奮しました、鼻息がフンフン言いました  
やべー、ついに彼女ができるー。

よ、よーーーし、  
つてねるんかい!?!  
じゃあ俺も寝よう。

で、31日起きて電話しました、

俺「じゃあ付き合おうつか?」

リカサン「うん」

こつして俺の初カノが16歳の3月31日に案外あつさり出来ました。

あー、なんか合コンの話のがながかつたような。。。

次は彼女との付き合いから別れまでを書きます。。。

案外なげーな。。

ではでは。

## 初キス（前書き）

隣のクラスの子と春休みに付き合い初カノができました。

## 初キス

という事で高校2年の3月31日に初の彼女ができました。

なんか

嬉しいっていうか

今後どうなるんだろうっていう楽しみでドキドキで

今みたいに彼女ができたら、

あーあの子とセックスできるんだ！！！

うおおおおみみたいな、下心もなく純粹に楽しみでした。

そんな付き合つた彼女と会う前に友達4人と花見オールに行きました。

友達は男5人・・・彼女持ちは俺含め2人。

もちろん他の3人は女の子が欲しいと騒ぎます。

そんな時、俺の携帯が鳴ります。

友達「俺も彼女欲しいし、告白するわーちょっと相談乗ってくれー！」  
といわれ

俺「うめん、ちょっと俺抜けるわ」とい

その場を離れチエリでそいつの所へ向かうこと。

んで友達との相談を終え花見組みに電話すると  
なぜかめちゃくちゃ盛り上がっている。。

そして後ろから女の子の声が・・・

花見友達「早く戻つてこによー楽しいぞーーー」

んで、戻ります。

なぜかナンパに成功したらしくかわいい女の子が2人います。

そしてやたら飲んでます。。

俺はこのテンションについていけるのか・・・と不安いっぱいだったが

30分後・・・

この輪の中心になっていました。

ブラック一ツ力を一気したら一発でいきました。

もせやビーサンすらはなせん。

ビールシートの上をのたづなまわっています。

王様ゲームもはじまっています。

しかし酔っ払って意味がわかりません。

そしてトイレスに行く途中に

ナンパした女の子と

初キスをしました！――――

やつた――初キスだ――――  
あんま覚えてね――――

そう俺の初キスは

その日にあい、  
飲んだ勢いで、  
浮氣という事実の中

達成しました。 。 。

最低。 。 。

その後、なんか地元の悪にからまれ  
友達は口殴られ歯が欠け、 、  
気がついたら朝になつていきました。 。

ぽけー

## 初力ノと恋愛（前書き）

初力ノできましたが、なぜか初キスはナンパした子としました。その件は別に繋がりませんが、眞面目な眞っ青な青年の初めての恋愛と失恋です。

## 初力ノと恋愛

彼女とは春休み中に会つた。

おかしな事に、初デートがどれだったか覚えてないけど夜家を抜け出して会いに行つたことは覚えてる。

当時結構家も厳しくあんま夜出れなかつたが俺の部屋は入り口側で窓から抜け出して原付でちょこちょこ会つて行つていた。

親はきづいてたのかな。。？

彼女の家は原付で20分ぐらい。

家の近くの公園のベンチでいつしか語るようになつた。何話してたのかなー、ぜんぜん覚えてない。とこりかまつたく覚えてない。

でもその話していた場所はイメージできる。

なんかさざなみ公園みたいな名前のつきそつうな場所。

あとは桜が見える公園を2人で歩いた記憶がある。そんとき初めて手を繋いだ。幸せだった。

結構有名な話だが男はまだ女慣れしていない時、女の手と手を繋ぐだけで

勃起するw  
いや、マジな話。

それを隠せうとまかっとの中につこんだ手でなんとかポジション  
チョンジしようとすると  
なかなかうまくいかず、たぶんよーくみたらおかしな動きをして  
たと思つ。

彼女ももしかしたら気づいていたかもしれない。  
それをトイレで直した記憶がある。

どうでもいいとにかく覚えてるし。

廊下でそれ違つて、付き合つ前だつたら  
「おっす」とか言つてたのに  
照れ笑いですれ違つだけ。

学校で会つと妙に照れくさい。

でもそりこつ時つて、嫌なような嬉しいような  
俺はこいつ時に凄い生きがいを感じる。

始業式の時に彼女の友達にちゃかされたつもした。  
学校が終わると夢にまでみた彼女との下校。  
うちの学校はチャリ通が多く彼女もその一人だつた。

彼女は学校までチャリで40分とかなり遠かった。

俺は歩いて3分・・・。

夢の登下校できないじゃん！と思うが、当時の俺は素直で眞面目な  
一途な少年だったのか、

それともただ一緒に下校したかっただけなのか歩いて3分のところ  
をチャリで通り、

帰りは彼女を40分かけておくり（というか2人別々のちゃりだけ  
ど）送った後43分かけて自宅に帰つてましたw

でも一度もそれを苦だと思わなかつたし、むしろ幸せだった。  
一緒に帰るときに「結婚しようね」って約束もした。

毎週火曜日は2人にとって学校をさぼる日だった。

3年ということである程度授業をさぼつてもさほど問題じゃなかつ  
た為、

火曜日は2限までさぼり3限から学校に行つてた。

じゃあそれまで何してたかというと彼女は、家族が会社などでいな  
くなつた

うちに遊びにきてた。

てかいちゃいちゃしてた。

俺のベットに2人で入つたりして音楽聴いてた。

そんな火曜日を繰り返してたんだけど  
ある時キスをして、彼女の服を脱がせた。

ブラを見ただけで興奮した。

胸を触つた。

く嫌がらないんだ♪と思ひながらその手を進め、下を脱がした。

触つた。濡れてた。

彼女は無言だった。

急に彼女は  
「私だけ脱ぐの？」って聞いてきた。

俺はパンツだけ吐いてた。

パンツは脱がなかつた。  
立つてなかつたんです。

たぶん緊張してたからだと思つ。

それ以上はせず学校に向かつた。

学校で彼女のクラスのやつに云々なことを言われた  
「あいつ魔性の女だからやめたほうがいいよ  
「もう家族出かけたよ」とこいつと彼女は布団に座った。

俺は  
「何いつて云々の? そんなわけねーじゃん  
と返した。

俺は初の彼女だつたけど彼女は俺が6人目でした。

そういうのもあって

彼女といふとたまに凄い嫌なことがあった。

「私右にたつの嫌なんだよね、左側でいい?」とか

普通に荷物を持ってといわんばかりにかばんをつきだしてきたり。

でも、特に文句も言わずその通りにしてた。

なんかよくわかんないし、そういうもんのかなとか思つて。

付き合つて少したつと彼女の実家に遊びに行つた。  
家族に少しあつて彼女の部屋へ。

でも俺は今までじゅりやらなかつた。

今思つと求めてたのかなとも思つ。

そんなことわあつながらだけ普通にひめへりつてたと思つ。

ただいつからか彼女がだんだん冷たくなつてきた。

帰りも送らなくていいよとか言い出したり、家にもあんまりこなくなつた。

なんでだかよくわからなかつた。

俺は保険の先生と仲良くてよく相談にいつてた。

「そういう時もあるんじやない?」とか

「受験生でいろいろ歎んでるんだよ」とか

真剣に話を聞いてくれた。

でも、ある時電話がかかってきた

別れようつて電話だつた。

たぶん本当に放心状態だったんだと思う。  
その後の失恋した時は覚えてるんだけど  
どんな電話だつたかまったく覚えてない。

ただ彼女は風邪をひいてた。

その日クラスの飲み会があつた。

俺はまさしくやけのみをした。  
みんながいるのに泣いた。

やたら泣いた。

死ぬほど飲んで、死ぬほど泣いた。

クラスの男、女の友達から

「大丈夫？」  
「かわいそう」  
「一途なんだね」  
「紹介するね！」

など遠くから聞こえてきた気がする。

初めての失恋は辛くて辛くてしおうがなかつた。

ほんとに真面目な、まつさらな気持ちで好きで好きで結婚するとい  
うこと

真面目に考えてたのに、「別れよつ」って簡単な言葉で一瞬でその思  
いが崩れた。

恋愛って本当辛いと思つた。

初めての彼女はこんな感じで2カ月半で終わった。  
セックスもやらずに終わった。

記憶がかなりあいまいだけど、振られた時はかなり辛かったことは覚えている。

初キスの件はなぜか流れているw

彼女にも言つたんだけど、なんかうやむやになつた。  
うーん。

次は2人目の彼女との出会いです

## 初恋（後書き）

初恋を経験して、次節は新しい出会いを経験します。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4046d/>

---

男ノ恋愛。真面目カラ遊ビマデ。-ノンフィク

2010年10月10日02時18分発行